

平成28年度日本小児外科学会
第7回定例理事会議事録

日 時：平成 29 年 5 月 10 日（水） 10：00～14：00

会 場：ホテルメトロポリタン仙台 4階 萩

出席者：黒田達夫（理事長）、越永従道（副理事長）、仁尾正記（理事・会長）、窪田正幸（理事・副会長）、八木 實、漆原直人、米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、廣部誠一（以上理事）、上野 滋、濱田吉則、前田貢作（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、和田 基（庶務委員）、仁田尾慶太（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第7回定例理事会の議事録署名人は、廣部誠一理事、米倉竹夫理事とした。
2. 平成28年度第6回定例理事会議事録（案）は、後日配布・確認することとなった。
3. 報告事項

1) 理事長報告（黒田理事長）

黒田理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 日本学術振興会からの通信文「第8回（平成29年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について」を受領した。
- (2) 日本医学会連合からの通信文「事務所移転のご挨拶」を受領した。
- (3) 厚生労働省からの通信文「新生児聴覚検査体制整備事業について」を受領した。
- (4) 日本医療機器産業連合会からの通信文「透明性ガイドライン改定のお知らせ」を受領した。
- (5) 日本医師会生涯教育課からの通信文「平成29年度「日本医師会医学賞」ならびに「日本医師会医学研究奨励賞」候補の推薦について」を受領した。
- (6) 日本医師会女性医師支援センターからの通信文「平成29年度 医学生、研修医等をサポートするための会」の開催について」を受領した。
- (7) 日本外科学会からの通信文「定期学術集会の開催日のお知らせ」を受領した。
- (8) 日本外科学会からの通信文「外科専門医認定試験および予備試験日程のお知らせ」を受領した。
- (9) 日本医学会からの通信文「平成28年度日本医学会新規加盟学会について」を受領した。
- (10) 文部科学省からの通信文「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）の公表について」を受領した。
- (11) 日本禁煙学会からの通信文「四者協の禁煙合同委員会の情報について」を受領した。
- (12) 日本医学会連合からの通信文「受動喫煙防止策に関する意見書について」を受領した。
- (13) 日本医学会連合からの通信文「次期役員候補者の推薦について」を受領した。外科系関連学会から連絡があり、会長に門田守人先生、副会長に森正樹先生、理事

に森正樹先生、岩本幸英先生、監事の推薦はなしとして提出した。

4. 審議事項

1) 第54回学術集会について（仁尾会長）

仁尾会長より、学術集会開催にあたって挨拶が述べられた。

会 期:平成29年5月11日（木）～13日（土）

会 場:仙台国際センター

テーマ:よろこびと誇りをもって 小さな患者さんのために

今回は、第7回胆道閉鎖症仙台国際シンポジウムとの同時開催であり、導入を決定した抄録アプリが5月2日に公開され、準備は順調に進んでいることが報告された。

また、抄録アプリの座長、演者の順番が五十音順になっていないという問題点があり、今後の課題とした。

2) 第55回学術集会について（窪田副会長）

窪田副会長より、以下の準備状況が報告され、了承された。

会 期:平成30年5月30日（水）～6月1日（金）

会 場:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

テーマ:家族の夢を紡ぐ小児外科：次世代への提言

3) 評議員会・総会進行手順について（黒田理事長、菱木庶務委員長）

黒田理事長・菱木庶務委員長より、評議員会・総会進行手順について説明された。

4) 次期理事、次期監事、次期副会長選任の件（菱木庶務委員長）

菱木委員長より、立候補状況につき報告があり了承された。

以下、評議員会資料に基づき、本年度事業報告を含めて以下のように報告・審議が行われた。

5) 庶務委員会報告（菱木委員長）

菱木委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

2017年3月末現在の会員数および2016年度の会員動向は、正会員2,131名（新入会:98名、退会:58名、資格喪失:39名）、名誉会員51名（国内:46名、海外:5名）、特別会員69名（国内:68名、海外:1名）である。

また、平成28年5月～平成29年4月の物故会員は、熊崎俊英、阪田章聖、GROSFELD JAY L.、藤原恒弘、須貝道博、FONKALSRUD ERIC W.、内藤稔、植木重文、藤原孝憲、佐谷稔、大神浩各先生の11名であることが報告された。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

- ・ 2016年（1～12月）の機関誌論文投稿状況・論文へのアクセス状況が資料に基づき

報告された。

- ・ 第52巻優秀論文につき住田 互、福原 雅弘両会員の論文を理事会に推薦し承認された。
- ・ 投稿規定の改定を行った。主な改正点は、掲載料として一律10,000円（依頼原稿はこの限りではない）。原著、総説は刷り上り4頁まで、症例報告は同3頁までを無料とし、超過分は1頁15,000円を著者負担とする。地方会・研究会の抄録は1頁15,000円とする、等
- ・ 優秀論文を選定するための選定基準を明文化し、内規を改定した。
- ・ 国立情報学研究所電子図書館の電子図書館事業の終了に伴い、CiNiiに蓄積された、日本小児外科学科雑誌のデータをJSTAGEに移行することになった。過去掲載分の取り扱いについては、「オープンアクセス」とし、2017年1月1日付で1号からすべての号をJ-Stageに公開した。
- ・ 学術集会号執筆依頼について、会長に一任するとページ数が増える傾向があるため、機関誌委員会で構成案を作成し、それを基に会長が構成案の作成、原稿依頼と回収を行うことになり、内規を改定した。
- ・ JSPS学術集会最優秀論文賞（JSPS prize）を創設することになり、これに関する内規を作成した。本年度（2017年、第54回学術集会）は以下の2論文の受賞が推薦され、承認された。なお、副賞は各10万円とし、評議員会でアナウンスと学術集会HPおよび抄録アプリで会員にお知らせすることとした。

Takafumi Kawano, M.D.

Department of Pediatric Surgery, Research Field in Medical and Health Sciences, Medical and Dental Sciences Area, Research and Education Assembly, Kagoshima University

Identification of a novel variant of the RET proto-oncogene in a novel family with Hirschsprung's disease

Masaya Suzuhigashi, M.D.

Department of Pediatric Surgery, Kagoshima City Hospital

Current characteristics and management of congenital esophageal stenosis-Forty consecutive cases from a multi center study in the Kyushu area of Japan

- ・ 査読者の選定と採否の基本方針に関しては、原稿の方法を明文化して内規を作成した。査読者の手引きに関しては、初めて査読をする先生を対象に作成したが、特に重要な部分を抜粋して、査読依頼とともに添付する方向で、簡易版を作成した。
- ・ PSIの契約更新については、事前に理事に回覧していた先方から提示された案を進めることとした。

(2) 国際・広報委員会（黒田担当理事）

黒田担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

- 各種ホームページの更新を行った。各種議事録を掲載した。
- ホームページリンク依頼への対応について
 - ①企業・外部団体から小児外科学会との学術関連のリンク依頼が来た場合、理事長、副理事長、学術・先進医療検討会担当理事の3名の審議で承認されれば、リンク可として返事をする。
 - ②リンクの依頼については、事務局に所定様式にて依頼する。
 - 1) 小児外科学会 HP 内へ、外部の資料のリンクを希望 (様式1)
 - 2) 小児外科学会 HP のアドレスあるいは資料を、外部の HP 内でリンク希望 (様式2)
- 国際活動として以下を行った。

2016年10月8日～12日に WOFAPS2016 がワシントン DC にて開催され、北川博昭評議員、奥山宏臣が理事会・総会に参加した。WOFAPS 総会で急遽行われた次期会長の選挙について、決定事項の突然の変更について理事長書簡を送付した。
- PAPS JAPAN からの報告

PAPS2016 (2016.4.24-28) がカウアイ島で開催 (山高篤行理事が president)。

また、PAPS2018 (2018.5.15-18) は札幌で黒田達夫理事長が主催されることに決定した。
- ホームページの見直し作業を進めており、①委員会・役職名の英語表記の統一化、②小児外科専門医の技術保障として、本邦の専門医基準を英語版で公開予定。

(3) 保険診療委員会 (廣部担当理事)

廣部担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

- 平成30年度診療報酬改定に向けての要望項目として、技術新設として5項目、技術改正として6項目、外保連を経由しない要望としてパリビズマブ (シナジス) の保険適応拡大を日本小児期外科系関連学会協議会を通じて、栄養サポートチーム (NST) 加算の改正を日本小児栄養消化器肝臓学会からの要望に賛同し、関連学会として内保連を通じて要望する。

(4) 教育委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- 第32回日本小児外科学会卒後教育セミナーを第53回学術集會会期に合わせて開催した。参加者は93名であった。第33回日本小児外科学会卒後教育セミナーは第54回学術集會に合わせ、平成29年5月13日 (土)、14日 (日)、仙台国際センター、東北大学星陵オーディトリウムで開催する。受講者数の増加を期待して、事前に学会員に対して電子メールにて告知を行った。
- 第7回内視鏡手術セミナーを第53回学術集會に合わせ開催した。参加者は88名であった。第8回内視鏡手術セミナーを、平成29年5月13日 (土)、第33回日本小児外科学会卒後教育セミナーの第1日目の前に開催する。
- 日本小児外科学会が出版した「小児外科疾患用語集」(日本小児外科学会編、金

原出版、1994年)については、日本外科学会発行の外科学用語集に情報を一本化することが確認され、PDFファイル化して本学会ホームページ上に掲載・保管した。

- ・ 日本小児科学会より「奇形」についての置き換えの提案があり、本会としての意見を日本小児科学会へ提出した。
- ・ さまざまな形で行われている学会開催のすべてのセミナーは、今後は教育委員会が一括して統制して管理していくこととなった。
- ・ 現行の卒後教育セミナーは継続事業とし、秋季シンポジウムに専門医の更新を対象としたレベルのセミナー「秋季セミナー」を開催することが現在検討中である。

(5) 悪性腫瘍委員会 (米倉担当理事)

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 小児の外科的悪性腫瘍 2015 年次登録症例の全国集計結果を機関誌 53 巻 1 号に掲載した。登録数は神経芽腫群 138 例、腎悪性腫瘍 51 例、肝悪性腫瘍 34 例、胚細胞腫瘍 140 例、横紋筋肉腫 30 例、その他の腫瘍 158 例で、総計 551 例 (5 腫瘍では、393 例で昨年より 8 例減) で、95 施設から登録された (前年より 10 施設増)。
- ・ 日本小児血液・がん学会疾患登録、日本小児外科学会悪性腫瘍委員会登録・小児がん全国登録の登録事業の連携に関しては長年にわたって審議されてきた。JCCG の発足後は、JCCG の固形腫瘍観察研究との連携も検討が必要となり、併存するいくつかの学会登録を整理して質と悉皆性の担保、および会員の重複登録作業の軽減を行うことが本邦における小児がん登録事業の喫緊の課題となった。学会の登録事業に関してはそれぞれの学会の担当委員会、理事会にて登録システムの統合に関する方向性が討議され、合意が得られた。2017 年 1 月に日本小児血液・がん学会が主体となり、日本小児血液がん・学会疾患登録、日本小児外科学会悪性腫瘍登録、小児がん全国登録を統合し、JCCG 固形腫瘍観察研究とも連携が可能な新たな web 登録システムを構築するために新規に登録システム合同ワーキング(WG)を立ち上げた。現在 WG を中心として領域別に登録内容の詳細を検討中である。来年度以降に新たなシステムによる登録事業が開始される予定である。
- ・ 日本小児血液がん・学会疾患登録、日本小児外科学会悪性腫瘍登録、小児がん全国登録の web 登録システムによる登録の統合事業計画に活用できるように理事会に上申 (上記 3 に関連) し、最終的に平成 28 年度厚生労働省の「データベース整備事業」の助成金の一部を用い、各学会の登録システムとの連携が可能となるシステムの構築をおこなった。
- ・ 日本小児外科学会悪性腫瘍委員会、JNBSG (JCCG 神経芽腫委員会)、日本小児血液・がん学会が協力して本研究に関する研究班が設置され、本悪性腫瘍委員会登録データを用いての付随研究として解析がすすめられている。
- ・ 日本小児外科学会悪性腫瘍委員会、JWiTS (JCCG 腎腫瘍委員会) が協力して本悪性腫瘍委員会登録データを用いての付随研究として解析がすすめられている。
- ・ 日本がん治療認定医機構における教育セミナー見学会、関連学会連絡会、アンケ

ート調査については、それぞれ会議には出席、あるいはアンケートには文書で回答し、今後のがん専門医制度に関する認定医機構の動向をふまえたうえで、日本小児外科学会としての方針を伝えた。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第 53 回学術集会学会の優秀ビデオ作品について、重要性、教育性、完成度を評価項目とし全 24 演題を評価した。その結果、上位 2 演題を優秀ビデオ作品として選び、ビデオライブラリーとしてホームページで閲覧可能となっている。
- ・ 2013 年新生児外科全国アンケート調査結果報告を 2015 年 9 月に PSI に掲載、また 2015 年 12 月に日本小児外科学会雑誌に掲載した。
- ・ 2018 年新生児外科全国調査報告は会員からのアンケートではなく NCD データを活用する予定で、データベース委員会と協同し、新生児外科項目の集計ロジックを構築中である。
- ・ 現在ホームページ上に掲載されている小児外科診療に関連したガイドラインの削除候補と新規ガイドラインの掲載候補のピックアップを行い、掲載ガイドライン（案）を作成した。著作権の最終確認後、学会 HP に掲載した。
- ・ アンケート調査、及び、診療指針、ガイドラインの審査依頼
 - ①岐阜大学小児科 小関道夫先生から審査依頼のあった、「難治性血管・リンパ管疾患に対するシロリムスの治験候補薬推薦の審議のお願い」について、理事会承認。
 - ②名古屋医療センター臨床研究センター堀部敬三先生から審査依頼のあった、「AYA 世代がん患者診療に関する専門医に対する調査」について、理事会承認。
 - ③九州大学小児外科田口智章先生から審議依頼があった、「第 3 次指定難病要望のための診断基準、ならびに、重症度分類の妥当性」について、審議結果を最終通知。
 - ④東北大学小児外科仁尾正記先生、佐々木英之先生から依頼のあった、「高インスリン血症の診断基準と重症度分類の内容と、ガイドラインに関して本学会内でパブコメをお受けすること」について、理事会承認。
 - ⑤信州大学小児科中山佳子先生から審議依頼のあった、「小児内視鏡ガイドラインに関して本学会内でパブコメをお受けすること」について、理事会承認。
 - ⑥新潟大学小児外科窪田正幸先生から審査依頼のあった、「先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群（総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH 症候群）におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドラインに関して本学会会員へのパブコメ募集の通知」について、理事会承認。
 - ⑦東北大学小児外科仁尾正記先生、佐々木英之先生から審査依頼のあった、「先天性高インスリン血症診療ガイドライン」について、理事会承認。
 - ⑧大阪大学小児成育外科田附裕子先生から審査依頼のあった、「極低出生体重児の消化管機能障害診療ガイドライン」について、理事会承認。

⑨学術・先進医療検討委員会から提出した、「診療指針（ガイドライン）およびこれに準じた研究成果の承認に関する規定（案）」、「診療指針（ガイドライン）のパブリックコメント受付に関する規定（案）」について、理事会承認。

⑩順天堂大学小児科工藤孝広先生から審査依頼のあった、「小児消化器内視鏡全国調査へのご協力をお願い」について、理事会承認。

⑪順天堂大学小児科工藤孝広先生、および、国立成育医療研究センター消化器科新井勝大先生から審査依頼のあった、「超早期発症炎症性腸疾患（VEO-IBD）全国調査」について、理事会承認。

⑫東京慈恵会医科大学小児外科吉澤穰治先生から審査依頼のあった、「ボタン・コイン型電池誤飲症例数調査をお願い」について、理事会承認。

⑬国立研究開発法人国立成育医療研究センター臓器・運動器病態外科部外科医長金森豊先生から審査依頼のあった、「我が国における先天性高インスリン血症に対する外科治療の現状調査依頼」について、理事会承認。

⑭聖マリアンナ医科大学放射線医学講座三村秀文先生から審査依頼のあった、「難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究に対する査読と承認」について、理事会承認。

⑮田口智章先生、安藤久實先生、仁尾正記先生から審査依頼のあった、「胆道閉鎖症診療ガイドラインの学会承認」について、理事会承認。

⑯鹿児島大学小児外科家入里志先生、川野孝文先生から審査依頼のあった、「小児がん（神経芽腫）に関する内視鏡外科手術の実態調査」について、理事会承認。

⑰京都府立医科大学の文野誠久先生から審査依頼のあった、「仙尾部奇形腫診療ガイドライン」について、理事会承認。

- ・ 2016年に pediatric surgery 領域での systematic review 論文で、Impact Factor が Pediatric Surgery International, European Journal of Pediatric Surgery 以上の論文を PubMed 検索し、38論文がセレクトされた。平成29年4月19日現在、著作権の問題をクリアした記載内容で理事会承認され、学会 HP にて掲載予定。

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原理事）

漆原担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 医療倫理セミナーについて、昨年は医療倫理セミナーとして、2016年5月26日（木）、ヒルトン福岡シーホークで、大分大学小児科教授 井原健二先生に「知っている小児外科診療にも役立つ臨床カウンセリングと医療倫理」と題してご講演いただいた。今年、「医療倫理講習会」として、5月12日（金）、仙台国際センターで、北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座 教授 高田史男先生に「ゲノム医学・健康・医療等に関わる今日的課題としての倫理的・法的・社会的問題」と題して、ゲノム医療の実践における問題点、取り組みについてのお話をいただく予定である。
- ・ 昨年は感染対策セミナーとして、2016年5月29日（金）、ヒルトン福岡シーホ

ークで、福岡歯科大学全身管理・医歯学部門総合医学講座小児科学分野 教授 岡田賢治 先生に「小児外科疾患と予防接種ー確認しておきたい予防接種の知識ー」と題してご講演いただいた。今年は利益相反委員会と共催で「感染対策講習会」として、5月11日（木）、仙台国際センターで開催予定である。東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 感染制御・検査診断学分野 教授 賀来満夫先生に「One World の時代の感染症対策」と題して、“ヒト”“動物”“環境”を統合的にマネジメントする観点から、感染症対策についてお話しいただく予定である。

- ・ 倫理・安全管理委員会の活動として続けている「倫理・安全管理委員会便り」をさらに5題 HP に掲載し合計 11 題となった。
- ・ 医療事故調査および裁判に関する対応
医療事故調査に関して、外部調査委員の推薦依頼が 1 件あり、外部調査委員を推薦した。また、最高裁判所より医療訴訟における鑑定人候補の推薦依頼があり、日本医療安全調査機構の医療事故調査外部委員に協力いただけるかどうかのアンケート調査結果をもとに、鑑定人を推薦した。
- ・ 第 117 回日本外科学会定期学術集会での医療リスクセッション
“医療安全そして考える外科学”をテーマとして開催されることから、各領域毎に「医療リスクセッション」が設けられ、小児外科領域として、司会、演者を選定した。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 平成 28 年 5 月 27 日（第 53 回日本小児外科学会総会時）および 10 月 28 日（第 31 回日本小児外科秋季シンポジウム/PSJM2016 時）に NCD-小児外科領域会議を開催し、症例登録方法、NCD-P 入力の実際、質疑応答等を行った。
- ・ NCD 術式は外保連術式をベースに構築されており、NCD 術式として登録されていない小児外科術式を新規要望術式として小児外科学会会員から NCD 登録術式の要望アンケートを行った。リストを作成し、データベース委員会から理事会への承認を経て NCD 運営委員会に提出した。

新規追加要望術式：先天性胆道閉鎖症再手術（掘削術・再吻合）、血管内異物摘出術（血管切開による）、食道拡張術（タッカーブジー等）、胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術、腹腔鏡下総胆管拡張症手術、腹腔鏡下腸重積症整復術の 6 術式を小児外科から NCD に新規追加要望術式として提出し、2017 年度から入力可能となった。

- ・ 2011 年ー2012 年の小児外科領域の術式ごとの手術数、年齢分布、生命予後等についてまとめ、第 53 回日本小児外科学会学術集会にてデータ開示（特設ポスター）した。またそのデータの解析結果は PAPS2016 年で発表し、英文学術誌へ投稿している。また、2013 年ー2014 年のアニュアルレポートについても近日中に公開予定である。さらには、2015 年から入力開始された NCD-P のアニュアルレポートは現在解析をすすめており、その一部の開示を予定である。

- ・ 小児領域における臨床効果データベース(DB)整備事業に小児外科学会の応募が採択された。その費用の一部を用い内視鏡外科手術のデータベース、長期フォローアップのデータベースが、2018年入力よりNCDデータを用いて集計されることとなった。
- ・ 5年ごとに行っていた新生児外科全国集計の項目をNCD-Pで登録できるように入力システムを構築した。2015年NCD-Pデータで、新生児外科全国集計をパイロット的に行っており、今後検証する。小児領域における臨床効果データベース(DB)整備事業の費用の一部を用い、その解析システムの構築を行った。
- ・ データベース委員会・小児外科学会(理事会、専門医・施設認定委員会、専門医制度庶務)小児外科学会事務局・NCD・NTT-PC・NTT レゾナントとカウントシステム確認作業を行い、システムの問題点を抽出した。小児領域における臨床効果データベース(DB)整備事業の費用の一部を用い、そのシステムの更新作業を行った。
- ・ NCDによる集計データが、手術を受ける患者と家族が正確な情報を得て手術(治療)を受ける判断材料を提示し、医療者側が治療技術の向上につなげるために、医療品質評価手術を2017年入力より拡大した。全登録の約2%の登録数の増加として試算した。
医療品質評価の対象術式：小児外科指導医申請の必須手術(新生児・非新生児)、準ずる手術(経験数の制限あり・なし手術) 喉頭気管分離、人工肛門閉鎖、横隔膜手術、脾摘
- ・ 2015年度までのNCDおよび小児外科学会への問い合わせとそれに対する返答を、Q&A集としてまとめた。その後の問い合わせと返答を追記してまとめている。NCDのHP、小児外科学会のHPにて閲覧可能とした。また小児外科学会のHP上では、小児外科学会会員の利便性を高めるためにQ&AをExcel形式として検索可能としている。
- ・ 2017年のNCD小児外科テスト入力を12月21日から27日まででデータベース委員会委員で行った。テスト入力による不具合をNCD事務局に報告し、入力システムを修正した。
- ・ その他
 - ①NCD・NCD-P登録の悉皆性と質の担保のため、Site Visit and Auditの運用準備を行っており、テストAudit準備中である。
 - ②渡辺栄一郎、平原憲道、宮田裕章、岩中督.National Clinical Database-小児外科領域の視点から-神経内科 84 (6) 567-571, 2016

(9) 小児救急検討委員会 (奥山担当理事)

奥山担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 平成28年9月17～19日に東京でPALS講習を開催予定していたが参加者が集まらなかったため、開催中止となった。今年度は、平成29年9月16日(土)～18日(月)に東京で開催することとなった。

- ・ 第6回小児救急セミナーを平成28年5月28日(木)、ヒルトン福岡シーホークにおいて開催した。「救急現場で児童虐待を見逃さないために！」をテーマとして、実施した。講師は市川光太郎先生(北九州市立八幡病院)にお願いした。参加者約80名で盛況であった。今年度は、5月11日(木)に野坂 俊介先生(国立成育医療研究センター放射線診療部)と高瀬 圭先生(東北大学放射線診断科)に「小児外科救急に役立つIVRの適応と現状」というテーマにご講演をいただく予定である。
- ・ 日本小児外科学会ホームページ上の小児救急の受け入れ状況のページについて、急性陰嚢症と異物に関しての救急受け入れについて新たに調査して、ホームページに記載する。
- ・ 平成29年度小児救急連絡協議会は今年度開催されなかった。

(10) 利益相反委員会(漆原担当理事)

漆原担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 機関誌委員会にお願いし、学会誌の論文著者に加えて、論文の査読者に対しても、利益相反状態の問い合わせを行っている。現在まで問題になる投稿はなかった。
- ・ 指針運用規則第4条に基づいて、理事、監事、委員会委員長、会長、副会長、特定委員会の委員(機関誌委員会、学術・先進医療検討委員会、倫理・安全管理委員会、保険診療委員会、利益相反委員会)に利益相反状態について自己申告を求め、指針に沿ったものであることを確認した。
- ・ 医療安全講習会を5月13日(土)、仙台国際センターで開催予定である。日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部部長の坂口美佐先生に「小児外科における医療事故事例の傾向」と題してご講演いただく予定である。

(11) ワークライフバランス検討委員会(廣部担当理事)

廣部担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 第53回学術集会でテーマ「小児外科医を取り巻く労働環境の改善ー若者に魅力ある小児外科をめざしてー」として、オープンセミナーを開催した。第54回学術集会では、テーマ「女性小児外科医の活躍促進・ダイバーシティ時代を迎えた小児外科のこれから」-として特別企画を開催する予定である。
- ・ 講演会企画として、第4回を平成28年10月27日(秋季シンポ・PSJM開催期間中)に、講師を株式会社 Calbee 代表取締役社長兼 CEO 松本晃氏として開催した。
- ・ 医学生および研修医に対して、小児外科学会からの情報発信として学会HP上に一般からもアクセスできるよう、HPの改変、委員会バナーを設定した。
この中では、これまでの講演会報告、ロールモデル紹介記事、小児外科医のワークライフバランスについてのアンケート調査結果などの他、ワークライフバランスの改善に取り組む小児外科学会の姿勢につき掲載していく。
- ・ 外部団体とのネットワークづくり、情報交換として、平成28年度「大学医学部・

医学会女性医師支援担当者連絡会」へ中原さおり委員、望月響子委員が参加した。

- ・ 小児外科学会におけるクォータ制導入と女性評議員委嘱について
学会全体で女性会員が 15.5%を占めるのに対して、女性評議員数は 6%に留まっている。女性評議員数を評議員全体の 10%（現行では 30 名）まで拡大するクォータ制の導入が提言され、2016 年評議員会で承認された。
今回の評議員選挙において、その立候補をもって、評議員活動への意思があるものとみなした。その立候補者の内、19 名の評議員選挙当選者に加えて 11 名の立候補者を、会員歴、指導医資格、評議員活動参加の意思再確認によって選任し、理事長より評議員に委嘱した。

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 本委員会は、成人期医療へ移行する疾患について調査・検討を行い、小児系・外科系他学会、公的医療システムや民間支援との連携も視野に入れ、移行期の課題に取り組む足がかりを造るため、2013 年にアドホック委員会として立ち上げられた。その後、2015 年 7 月に常設委員会として継続が決定された。
- ・ 一昨年度より作成している移行期支援ガイドブックについて、理事会校閲、小児外科学会会員パブリックコメントを経て、最終版が完成し、冊子化および学会 HP 上に掲載した。
- ・ 昨年秋の秋季シンポジウムでトランジションが主題として取り上げられ、当委員会の活動報告を含めた数々の取組みが提示されたり、他学会や研究会等でも移行期医療への関心がたかまっているが、施設や領域による温度差があり、またカウンターパートである成人診療科への働きかけについてはまだ取組みがなされていない。作成したガイドブックや患者サマリーの活用法についても工夫し、活動を拡げていく必要がある。

(13) 規約委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 日本小児外科学会が主体となって収集した臨床データの扱いに関する規約案が理事会から提示されたので内容や文言を検討した結果、NCD データをもとに NCD から報告されたデータと、学会下部組織である委員会が収集したデータとを同一に扱うことの問題などが議論されて、現在その内容を再度議論することになった。
- ・ 日本外科学会委嘱評議員の推薦に関する理事会内規が不必要となったのでこれを削除することに関して検討して問題ないと判断した。
- ・ 理事会への前理事長の出席に関する新しい理事会内規について検討し、文言の訂正などの提案をして了承された。
- ・ 定款施行細則の会費に関する改訂案が提示されたので検討し、会費の記載方法について数字と漢数字の記載をどちらかに統一すること以外には問題ないことを

回答し、了承された。

- ・ 日本小児外科学会が共同作成あるいは公式参画したと認められる診療ガイドラインの目安に関する申し合わせ、について案が理事会から提示されたのでその内容や文言について学術・先進医療検討委員会とともに検討中である。

7) 理事長報告について（黒田理事長）

黒田理事長より、評議員会における理事長報告について以下の内容の説明があり、了承された。また、越永副理事長より総合調整委員会報告の内容につき補足説明があった。

- (1) 会費値上げについて
- (2) 社団法人化について
- (3) 専門医制度について
- (4) 学会の在り方に関する検討について
- (5) 女性評議員委嘱について
- (6) 関係団体との連携・協力について
- (7) 国際活動について
- (8) 会員情報システムについて
- (9) NCD-P のデータについて

8) 専門医制度委員会報告（米倉専門医制度庶務委員長）

米倉専門医制度庶務委員長より以下の報告があり了承された。

(1) 施設認定委員会審査結果報告

- ・ 新規申請

認定施設 申請 4 施設, 承認 4 施設

教育関連施設 申請 9 施設, 承認 7 施設

- ・ 更新申請

認定施設 申請 1 2 施設, 承認 1 2 施設

教育関連施設 申請 3 施設, 承認 2 施設

- ・ 年次報告書（2015年分）

審査件数 1 5 9 施設 認定施設 9 6, 教育関連施設 6 2, 特定施設 1

(2) 専門医認定委員会審査結果報告

- ・ 指導医更新

申請 3 3 名, 合格 3 3 名

- ・ 指導医新規

申請 1 7 名, 合格 1 3 名

- ・ 専門医更新

申請 4 3 名, 合格 4 3 名

- ・ 認定登録医

申請 6 名, 合格 6 名

- ・ 専門医新規

申請 27名, 合格 26名

- ・ 名誉指導医

申請 2名, 合格 2名

- ・ 専門医筆記試験

国試方式 80問 140分 委員会方式 20問 40分

受験者 71名 合格者 40名 (56.3%)

(3) 合同委員会 (施設認定委員会および専門医認定委員会) 報告

小児外科学会 (理事長・副理事長・DB 委員会担当理事・同委員長・同顧問)、小児外科学会専門医制度両委員会 (施設認定委員長・専門医認定委員長・専門医制度庶務委員長)、学会事務局、システム関連組織・企業 (NCD・NTTレゾナント、NTT-PCコミュニケーションズ) など関係者が複数回参集し、指導医・専門医申請システムと年次報告の症例集計システムに関わる現状の問題点を検討した。この結果、NTTPC のシステムにおいて指導医申請に係るロジックを中心に不備があることが判明し、NTTPC に対しその改修を依頼した。

9) 財務会計委員会報告 (渡井財務会計委員長)

渡井委員長より以下の通り報告・提案され、承認された。

渡井委員長より、平成 28 年度収支決算報告、平成 29 年度収支予算案につき説明があり、質疑応答の後、了承された。

10) その他

- (1) 渡井財務会計委員長より、2017 年 6 月 4 日(日)に日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会・日本小児期外科系関連学会協議会共催の「乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 PartIII」が東京大学本郷キャンパスで開催されると情報提供があった。

11) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成29年5月13日(土) 12:00~13:00に、仙台国際センター 会議棟3階 小会議室8にて開催することが確認された。

理事長 _____

理事 _____

理事 _____